— vol.9 —
2020年5月13日発行

さざなみ壱番館・ヘルパーステーションわおん

青木 由佳（あおき ゆか）

さざなみ

2018年に株式会社さざなみに入社し、現在はさざなみ壱番館、ヘルパーステーションわおんで活躍する青木由佳。以前はグループホームに勤めていたが、引っ越しにともない転職したという。青木がヘルパーを志した理由や入居者様との思い出、今後の展望を聞いた。

――転職のきっかけ

ヘルパーとして働く以前は、寿司店で働いていた青木。仕事は好きだったものの、景気の波に左右され、悪いときには勤務日数を減らされることに先行きの不安を感じていた。そこで、万が一を考えて子どもが小さいうちにヘルパー2級の資格を取得する。

「祖母が祖父の介護をする姿を目にし、いずれ自分が介護をする立場になったときに『身内としてどう接したらよいかを学べる』と考えたのです」。

資格取得後は、大好きだった飲食の仕事に見切りをつけ、当時住んでいた家から近いグループホームで働きはじめたのだった。

――入所者様との距離を縮められた喜び

青木の仕事は、入居者様の支援がメインとなる。入浴介助や洗濯、部屋の掃除といった身の回りの支援に奔走し、レクリエーションなどを行いながら楽しく過ごせるよう心を配る。レクリエーションの一つでは、季節に合わせて折り紙を楽しみ、桜や富士山、節分の鬼といった切り絵を一緒につくっているという。

レクリエーションの参加者は、やはり女性の入居者様が多い。男性はなかなか参加することがないため、打ち解けるにはどうしても時間がかかってしまう。なかでも、青木が気にかけていた一人の男性の入居者様がいた。その方は、日常生活の支援の際ヘルパーに要求もすることも多かった。

▲ レクリエーションの様子　（右・左）

あるとき、男性がトイレを汚してしまい困っていたところを掃除しきれいにすると、思いがけず「ありがとうな」との一言が。それ以来、青木に対する態度が一変し、とても穏やかな物腰となったのである。

「その様子を見て『この仕事に就いて良かった』と心から思いました」。

ヘルパーとして入居者様の支援をするのは当然のことだが、「やってくれて当たり前」という気持ちではなく、感謝の意を伝えてくれたのがとても嬉しかった。

その後、男性が入院した際には必ず会いに行き、ちょっとした買い物を頼まれるなど、青木は小さな心配りを重ねた。やがて来訪を待ち望まれるようになり、今ではとても良い関係を築いているという。

――向き合うことの大切さ

ある入居者様で、部屋に閉じこもりきりの女性がいた。一人で歩行できて、食事も介助なしで取れるにもかかわらず、入浴や食事、トイレを利用するとき以外は部屋から一歩も出てこないのだ。入室するとベッドに横たわったまま、会話もほとんど一方通行で、いいたいことだけをぶつけてくる。当然、ほかの入居者様が楽しみにしているレクリエーションにも出てこない。

「せっかく生活に支障がないほど動けるのにもったいない」と感じた青木は、ほかのヘルパーに相談。そして「会話をするときは一対一で向き合って、ゆっくり話すと良い」というアドバイスをもらい、試してみた。

すると、少しずつではあるが変化が現れた。まず、ずっと拒否していたデイサービスへ行くようになり、やがて自ら「行きたい」というように。そして、寝たきりだったサービスの時間は、座って会話できるようにもなる。さらには全く手を出そうとしなかったタオルたたみも「挑戦してみよう」という姿勢が見えてきた。まだまだ課題はあるが、「大丈夫。できていますよ」と声をかけて一緒にやることで、一度は失いかけた気力をとり戻してほしいと願っている。

――充実した時間をごせる場所に

青木が目指すのは、「施設で自分が楽しい一日を過ごせる」ことだ。そのためにはもちろん、入居者様に笑顔でいてもらいたい。安全に、居心地よく過ごしてもらうにはどうすればよいか、を考えるのが今後の課題だ。

また、楽しみの多い女性陣に比べて、男性は仕事一筋で生きてきた方が多く、楽しみ方が難しい。

「『食』に興味を示す方は男女問わず多いことから、たこ焼きパーティーやお花見のほか、一風変わったおやつづくりなどにも挑戦したいですね」。

これからも青木はその前向きな姿勢で、さざなみにとって必要不可欠な存在として何事にも取り組んでいくことだろう。

▶ 月ごとの制作物：桜の木の貼り絵（上・下）

さざなみアカデミー学院

今回はさざなみアカデミー学院についてご紹介します！

どんな事業？

介護職としてキャリアアップを目指していくときに、資格取得の第一段階となる「介護職員初任者研修」の講座を実施しています。職員向けの福利厚生という面が大きいですが、職員以外の方にも受講して頂いています。

介護職員初任者研修ってどんな講座？

介護の基本の考え方や介護保険制度、介護技術の基本などを座学と実習を通して学びます。最後には介護過程という介護を実践する際の考え方の基本を学びますが、これは次の段階の資格である実務者研修でも出てきます。

徐々にステップアップしていけるよう資格が組まれているのが、介護の資格の魅力でしょうか。

どんな方に受講して欲しい？

無資格で介護の仕事にチャレンジしておられる方、ご家族に介護が必要になられた方など「介護」が身近にある人は是非受講して頂きたい内容となっています。

また、介護分野に少しでも興味のある方も学びやすい内容になっています。

メッセージ

この大変な時期ですが、今後のキャリアや人生の進み方を考えた時に介護の資格を取っておきたいと思った方は、ぜひ さざなみアカデミー学院で資格取得しませんか？

この写真の様に、入居者様と一緒に生活を楽しむことができるよう、学びを深めていっていただければと思っています。

感謝の気持ちを伝えよう！

日頃伝えきれない感謝の気持ちを今回は伝えていただきました。

From 本社 大上（おおうえ） 浩史（ひろし）さん

To 有限会社 さざなみ

メッセージ

渉外活動をさせていただいておりますが、外部に向けてボランティアのような活動も多く、内部へ向けての仕事のベクトルが少ない中、社会貢献を担っていると仕事内容について理解を示していただいていることに本当に感謝しております。

From グループホームさざなみ京都南 小川（おがわ） 彩香（あやか）さん

To グループホームさざなみ京都南 大山（おおやま） 明子（あきこ）さん

メッセージ

大山管理者の下、勤務をしております。
大山管理者からは、時に厳しく、時には優しく介護の支援の勉強を学ばせていただいています。また、介護だけではなく、日常の私自身がわからないことも教えてくださる管理者です。私がこの施設で勤務をしていて一番に感じること、それは1日1回管理者から笑顔になる会話をしてくださることです。働く上では本当に嬉しいことです。
大山管理者！ありがとうございます。
これからも宜しくお願い致します。

From グループホームさざなみ加納 若井（わかい） 文子（ふみこ）さん

To グループホームさざなみ加納 スタッフの皆さん

メッセージ

3月初旬に入居されたY様、1ヶ月後に持病のため、入院・退去となってしまいました。
在宅で担当していたケアマネージャーのNさんに連絡をしたところ、「そちらのホームに入れていただいて本当にありがとうございました！」と、とても感謝されました。
お話を伺うと、在宅にいらっしゃった時は、訪問介護などのサービスも受け入れられず、ご家族の負担がとても大きかったとのこと。
さざなみ加納に入所されるや、介護に対する拒否も無く他の入居者様ともすぐに馴染まれ、笑顔がたくさん見られました。日頃の様子をNさんにお話すると、
「施設の雰囲気や皆さんとの相性がピタッと合ったんでしょうね、ありがとうございました」とおっしゃっていただいた時、とても嬉しく涙が出ました。
そして、いつも入居者様に寄り添いケアをしてくれているスタッフの皆さんにも本当に感謝しました。